

まちで見かけた花のある風景…

刈谷で見かけた、ちょっと気になる花のある風景をご紹介します。

特に、今回は、庭先に多くの草花を植え、道行く人に潤いのある空間を提供しているお宅です。



通りを歩くと一際目につく花たち。コンテナ・ハンギングバスケットが冬の無彩色な景色に彩りを添えています。「かりや景観づくり講座」に出席された新富町の岡田さん宅は、そんな花と緑に溢れた家です。

Q. ガーデニングを始めたきっかけは？

A. ガーデニングを始めたのは7～8年前です。長女の「うちのお庭は寂しいね」という一言がきっかけでした。自然な感じの庭が好きで、イングリッシュガーデンを作るのが夢なんです。最近は、わざと欠けた鉢を使うなど、器にも凝っています。



Q. 「かりや景観づくり講座」に出席したご感想は？

A. 花を植えていて、近所の方が「綺麗ですね」「目の保養になります」などと声を掛けてくださるのが嬉しいです。声を掛け合ったり、花の譲り合いをしたりすることから輪が広がっていくのではないかと思います。刈谷市は他のまちに比べてまちなかの花が少ないと思います。地区毎に今回のような講座があると、花づくりの輪が広がり、ひいてはまちも美しくなっていくのではないかと思います。



橋本さんはミササガパークに一目惚れをし、その傍に住みたいと現在の場所に居を構えられました。「大好きな公園を活かし、調和した家にしよう。」そんな気持ちから半城土町の橋本さんの家は作られています。

Q. どんな所に気を使われて家づくりをされていますか？

A. 中庭は自分たちが楽しむために、外庭は周囲の方や公園を散歩される方に楽しんでいただけるように心がけて作っています。花を植えていると、「いつも楽しみだわ」と声を掛けてくださる方がみえます。そうすると嬉しくて、「頑張らなきゃ！」という気持ちになるんです。自分の家が大好きな公園の景色に溶け込むような、そういう家づくりを心がけています。



Q. 刈谷市の景観づくりに必要なことは？

A. 「外に向かって綺麗にしていこう」という意識を持つことが大切だと思います。そうすると、どんどん街が綺麗になって、歩くのが楽しくなりますね。周囲の風景を見て、その場所に適した色や形、雰囲気仕立てることが、より良いまちなみ景観を作り出していくのだと思います。



坂梨流

「庭を飾る」ガーデニングのススメ

これからの季節におすすめの花飾りについて坂梨先生にお聞きしました。

まず、植物には「得な植物」と「損な植物」があります。「得な植物」とは、①開花時期が長く、②多花性であり、③性質が強いものを指します。逆に「損な植物」とは、①開花時期が遅く、②花が少なく、③性質が弱いものといえます。



花の特性を見極めて、なるべく「得な花」を使うことを心がけてみましょう。

それでは、実際にどのような花を植えるのがよいかということですが、これからの季節、春から夏にかけては四季咲きペゴニアやサルビアがオススメです。



日本古来のギボウシなどもよいですね。

また、カラーリーフが今目を浴びています。カラーリーフというと、昔からある葉ケイトウなどもそうですね。また、シルバー系の白紗菊や赤・黄・グリーングラデーションなどを楽しめるコリウスなどが有名です。

輸入品がお店にも出回っているので、トライしてみたいかどうか。



ひかり結ぶまち

かりや景観れぽーと

テーマ
景観づくり講座

VOL.12

発行日：平成16年3月15日

発行：刈谷市都市計画課

TEL (0566) 62-1022



今回は、市民の皆さんに景観づくりに参加していただく機会として設けた「かりや景観づくり講座」の開催結果を中心にをご紹介します。

「かりや景観づくり講座」は、公募により集まった受講生を対象に開かれました。講座は、全3回で構成され、初回は学識者による景観づくりに関する講演、第2回、第3回はガーデニング講座として、講師等によるデモンストレーションと受講生自らによるコンテナづくりを行いました。

寒さが緩み、草木も元気になるこの季節、刈谷のまちを歩きながら、景観について考えてみませんか？

かりや景観づくり講座



第1回
講座

景観づくり講演会

■平成15年11月18日
■刈谷市民会館

お洒落な花の まちづくり



お洒落園芸プロデューサー
坂梨 一郎氏

育てる園芸から、 飾って楽しむ園芸

昔の園芸は、盆栽を代表とした男による趣味の世界でした。その園芸の世界では、植物の種類を集めること、作り方・増やし方の技術を磨くことに力が注がれ、また技術は他人に安売りしない、秘密主義的なものでした。こうしたことが、園芸の世界を閉鎖的にしていたんだと思います。

それが今日、人々の生活が豊かな時代を迎えて園芸が変わりました。「花は暮らしのアクセサリ」という時代です。花は、あなたの家のまわりを飾る演出の小道具であるという時代になってきました。そして従来の「園芸」ではなくて、女性による新しいおしゃれな園芸を楽しも

うという時代に入り、「育てる園芸から飾って楽しむ園芸」に移り変わりました。

園芸とガーデニングは違う？

3～4年前から、「ガーデニング」という言葉が流行り出しました。「ガーデニング」の直訳は「園芸」ですが、「ガーデニング」と「園芸」は微妙に違うと思います。それは何かと言うと「おしゃれ感覚」です。「ガーデニング」には、これまでの「園芸」が持っていなかった「おしゃれ感覚」が備わっているのです。花をただ植えるだけ、発泡スチロールの

空き箱でいいなどというような感覚ではガーデニングはできません。

ガーデニングにはテラコッタ鉢などのおしゃれな園芸資材を用いて、草花の姿形全体を背景となる建物や街並みに調和するよう、美しく飾るセンスが求められるものなのです。

フラワーコミュニケーション で美しい街並みづくり

花育てを通じて多くの友達ができます。フラワーコミュニケーションです。共通の話題と目に見える成果、通りすがりの人

との会話や持てる知識のおすそ分けなど、花育てを通じた人間関係は、どんどん広がります。

より良い人間関係が広がると、花や緑で飾られた美しい街並みも自然に広がっていくものです。

おしゃれな花飾りは 伝染する！

真似が始まる。一人がセンスの良い花飾りを始めると、隣近所で真似が始まります。誰かがパイオニアとなって始めることが花のある美しい街並みを作っていくきっかけになるんです。

おしゃれな花飾りは伝染する！

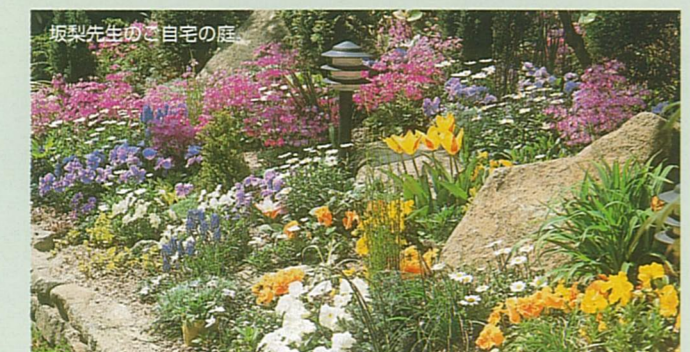
皆さん、刈谷市における「花飾りのパイオニア」となって、隣近所に花飾りと美しい街並みづくりを伝染させていってください。



■■坂梨一郎氏のプロフィール■■
1930年（昭和5年）名古屋生まれ。元名古屋市東山植物園長、NHK「趣味の園芸」で15年間講師を務める。現在は、日本ハンギングバスケット協会名誉会長、英国王立園芸協会日本支部理事、名古屋女子短期大学講師（非常勤）、西日本短期大学客員教授（福岡県）等、幅広く活躍している。

お洒落な花のまちづくりのポイント

- 1.花は暮らしのアクセサリ
- 2.ガーデニングには美しく飾るセンスを磨くことが必要
- 3.美しい街並みづくりはフラワーコミュニケーションから



坂梨先生の自宅の庭

家族で風景を楽しむ まちづくり



愛知教育大学助教授
寺本 潔氏

風景は "造られたもの"ではなく、 "造っていくもの"？

私は、風景や景観は造られたものである、とずっと思い込んできました。私たちの力ではどうにもならないものだ。

アメリカやイギリス等の旅行から名古屋空港に帰ってきた瞬間、いたるところに様々なものが氾濫していることに気づきます。電柱や派手な看板、近代的なビルと和風の建物の混在。日本は、何でこうなんだろうと思います。景観、風景というのは「造られているんだ」と他人事のように思っていました。

しかし今日、坂梨先生のお話を聞いて学びました。「風景は造っていくんだ、私たち一人ひとりが行動し、造っていくものだ」と。街並みや景観づくりは「育む」という精神が大切なんです。

まちの風景に関心を抱く

景観づくりには、まちの風景

に関心を持つことが大切です。

以前、親子と一緒にカメラを持って「20年後に残したい刈谷の風景」を撮影してもらおうというイベントを行いました。その結果、都市化が激しい市街地でのコスモス畑等のちょっとした自然が、見る者の心を和ませる風景として、多く寄せられました。また、子供の頃に遊んだ河川敷や路地、地藏のある辻等、個人の体験や思い出に関わる風景に関心が寄せられました。地藏のある辻は街並み全体と比較すると大変小さな風景ですが、街の風景を物語る上で大変重要な要素であると思います。

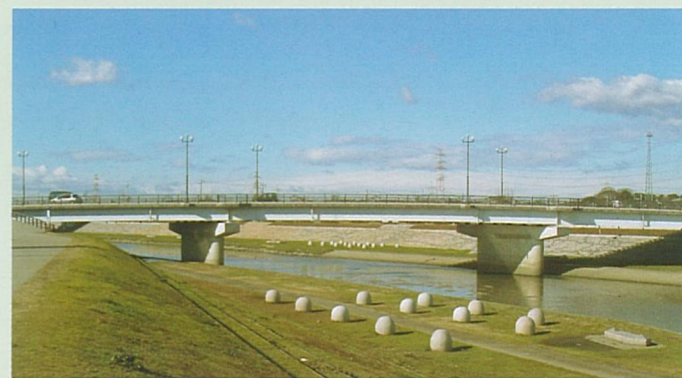
こうした歴史的な趣が残り、市民にとって馴染み深く、愛着のある風景は、誰もが大切であると思っっているはず。今後は、それらを市民がどのように共有していけるかが重要です。

家族で風景を楽しむ方法

一つは昔の住宅地図を見ることです。地図を見て刈谷の昔と今を比較し、まちの変貌を感じてください。そして、子や孫に何を残したいか、何を伝えなければいけないかを考えてください。一人ひとりが考え、また家族で話し合うことが、刈谷の街並みや風景に対する関心を呼び

風景を楽しむまちづくりのポイント

- 1.まちを歩き、風景をよく見て、みんなで語ろう
- 2.地図を見て、昔の風景を思い起こそう
- 3.私たちが風景を造り出そう



起こすことになるはず。

みんなで行動しよう！

景観づくりは、市役所に任せおいたらダメです。景観づくりは市民参加で行うものです。

自らの足で歩いてください。お子さんやお孫さんと歩くと、いつも見慣れた風景が違ったものに見えてくるはず。また歩くことで、地域の人との出会いがあるかもしれません。お店や田畑で働いている人とのふれあいが、景観づくりのきっかけになることだってあるんです。

以前、西尾市で「親子でまちを歩く」イベントを開催しました。街を歩き、感じたことを紙面に描いてもらいました。このイベントをきっかけとして、子供たちは、自分が住む町の歴史や文化を調べたいと思うようになり、また見られる側の店主たちは、子供たちを気持ちよく受け入れようと、積極的に休憩所を設けるなどの対応を行うようになりました。

行動することで、気持ちが繋がり、街づくりに発展します。

■■寺本 潔氏のプロフィール■■
1956年（昭和31年）熊本県生まれ。熊本大学卒業、筑波大学大学院修了後、筑波大学付属小学校教諭を経て、現職。現在、子どもや学校をまちづくりの仲介者として活用することを提言し、子どもの学習を通じて大人も巻き込んだまちづくりを進めるという活動を推進している。

第2・3回
講座

実践ガーデニング講座

■平成15年11月26日・12月9日
■刈谷市民会館



第2・3回講座は、実践ガーデニング講座と題して、ハンギングバスケットショーとコンテナづくりを行いました。

そこでのポイントを右に整理してみました。皆さんも、ガーデニングをする時の参考にしてみてください。



▼コンテナについて▼

- まず、花木を植える位置を確認
- 鉢底に大きめの石を敷き詰めて水はけを良くする
- その上に少し土をしいて準備完了
- 植え込みには、花木の顔(正面)を確かめて
- 全体バランスは、一歩さがった場所から確認を

▼植え終わったら・・・▼

- お洒落な道具でセンスアップ
- 作ってすぐは外に置かない、日当たりがよく、風の当たらない場所へ
- 花への直接の水かけは禁物、根元へ丁寧に



講座の最後に坂梨先生から、第2回のハンギングバスケットショーや第3回のコンテナガーデニング講座を通じて、受講生の皆さんが、「花飾り・景観づくりのパイオニア」になってほしいという、期待と励ましのお言葉をいただきました。

参加者の声

かりや景観づくり講座に参加された方の声を一部ご紹介します。



- 自分だけで楽しむのではなく、市民皆で楽しめるオープンガーデンも楽しいというお話が印象に残りました。
- 教えていただいたことを近所、隣りに人に教えてあげたい。伝染する、パイオニアになるよう努力します。
- まずは自分の足で歩いて風景を楽しみ、関心を持つことが必要。
- お洒落な家族は散歩する。坂梨氏のオープンガーデンも含め、まちを歩くことの大切さを知りました。住んでいるまちを誇りに思うまちにしていかななくてはと思います。
- 緑の多いまちは良い。町内ごとに特色を出した景観づくりをしていくと良いと思う。
- 今回限りにしないで、サークルができるまで育ててほしい。

【一緒に刈谷のまちを花で一杯にしませんか？】

ハーブを中心とした花飾りを一緒にやっていただける方を募集しています。興味のある方は下記までご連絡ください。

ハーブガーデンの会 三田村 美保 (小山町 ☎ 27-7965)・古村 美香 (丸田町 ☎ 24-7826)